



小笠原 咲絵

採用・人事コンサルタント

連絡先

メール：
sakieogasawara@gmail.com

【プロフィール】

1986 年生まれ、33 歳。東北町出身。

2005 年 3 月 青森県立八戸東高校卒業

2009 年 3 月 中央大学総合政策学部国際政策文化学科卒業

2009 年 4 月 新卒で株式会社リクルート HR マーケティング（現 株式会社リクルートジョブズ）入社。以来、東京・仙台・富山・新潟・宇都宮と異動を繰り返しながら「タウンワーク」等のアルバイト・中途採用のための求人広告の企画営業・マネジメントに携わる。

2016 年 4 月 株式会社リクルートキャリアへ転籍。雇用創出支援グループにて、宮城県気仙沼市における企業採用支援プロジェクトや、NPO・NGO といったソーシャルセクターにおける採用支援プロジェクトの運営・企画を経験。

2019 年 6 月末 退社、7 月より青森県内にてフリーランスとして採用・人事の支援を行う。

東京に出て初めて「青森アイデンティティ」を強烈に認識する

高校 3 年の進路選択をする際、私は青森から出たくて出たくてしょうがない、早くこんな狭い世界から脱出するのだ、そんな想いで上京しました。

しかし、いざ東京での暮らしを始め、様々なバックグラウンドをもつ知人と知り合うにつれその思いは徐々に変化していきました。日本全国、様々な都道府県出身者や、帰国子女の友人たちと出会ううち、改めて自分自身が「青森で育ったからこそ」今の価値観や根幹となる考え方が身についたのだということに気が付き始めるのです。

地元の祭りのお囃子や流し踊りの旋律は、時間が経っても忘れることはなくずっと残っていて、酔っ払っては地元の上北町音頭を踊っていました（笑）。お節介だと感じることもあったご近所付き合いや親戚付き合いは、それが一切なくなった東京で暮らして初めて有難いものだったと思うようになります。東京での暮らしは、一人で完結し、住んでいる地域の行事に参加を求められることはありません。雪かきでお隣さんの雪をかく必要もなければ、作りすぎたからとカレーをお裾分けしてくれる人はいません。

人と人が支え合う必要がある地方の暮らしは、地域のしがらみが煩わしく感じることもあるけれど、支え合い関わり合い、周囲の様々な人から「見守られて」今の自分が育ってきたのだと、感謝するようになりました。

いつか、青森に貢献できる人になろう

大学 4 年生で就職活動を迎える頃、私の胸にはそんな想いが宿っていました。いつか、青森に貢献できる人になりたい。でも、今帰ったところで何かをすぐにできるイメージもない。それならば、それを見つけられるような会社で働こう。そんな想いで就職活動をするうちに、「求人広告の営業は、その街に自分営業として介在することで新たな雇用を作るきっかけに携わることができる」という先輩社員からの言葉に胸がときめき、リクルートで社会人生活をスタートすることにしました。

「私、青森出身なんです」を、きっかけにお客さんの心の中に飛び込む営業

約10年を過ごしたリクルートでの時間のうち、約8年を求人広告の営業とチームマネジメントをミッションにして過ごしました。求人広告の営業は、中小企業の経営者・人事担当者の方に対して、採用についてのお困りごとを聞き、自社の持つ求人メディアを通じた解決策を提案するというものです。「アルバイトを採用したいんだけど、応募が来なくて困っている」「若い社員の定着率が悪く、どのように育成すればいいか、そもそも採用の時点でどういう人を採用すべきか悩んでいる」そんな、経営者や人事担当者の相談役となり、課題解決に向けた伴走をしてきました。お客様の相談役になるまでには、「どのような採用課題があるのか」、「どのような事業展開を計画しており、そのためにどんな人を採用する必要があるのか」といった、会社の経営に関わる悩み・課題をお話しいただけるような関係性を築く必要があります。営業マンであるという前にいち社会人として心を開いていただき、信頼関係を築く必要がありました。私は約2年に1度位のペースで異動をしていたので、各地でイチからお客様とそのような関係を築かなければなりません。そんな中、「青森出身です」という自己紹介は、お客様の心を開く一つの言葉になり、「青森出身のリクルートの営業の子」という私の印象付けの一助ともなりました。「青森出身の小笠原です。いつか地元で貢献したいと思い、この会社を選び、この仕事をしています。御社のことを教えてください」の一言で地方経営者の方はぐっと心の距離を縮めて下さったように思います。

青森の未来を作っていく企業や学生さんの力になりたい。

約10年、社会人としての生活をリクルートグループで過ごし、実は（恐らく何もなければ）当面も同じ会社で働き続ける予定でした。しかし、第一子の育休中に、実家の母が病気を患い、辛い闘病生活を一定期間送ることになるということが判明しました。それをきっかけに、都内に借りていたマンションを引き払い、私と息子は実家へ、旦那は東京での2拠点生活を開始し、東京と青森とを行き来することになりました。幸いなことに母の病状も落ち着いたタイミングで、私は会社を退社し、本格的に青森で個人事業主として働くことを決意しました。

就職活動をしていた約10年前の自分が心の中に描いていた「青森に貢献できる人に」ということが、思いがけず実現することになったのです。「リクルートを辞め、青森で個人事業主として仕事を始める」ということを報告すると、学生時代から私を知る人たちから「ようやく思いが実現するんだね」と激励の言葉をたくさんもらいました。

何の天命か、運命か、このような機会をもらったからには、出来ることを振り絞って挑戦したいと思っています。

「採用コンサルタント」などという、格好つけたような肩書を名乗っていますが、青森の未来を作る企業、そして学生さんにとって、私ができること・力になれることがあるのであれば、どんなことでもお手伝いしたいと思っています。既に何社かのお客様とご縁を頂いていますが、「小笠原と関わってよかった」と思っていただけのような仕事をしたいと思っています。